

# 西日本インカレ（合同研究会）2017 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報に記載しないでください。

大学名（フリガナ）	学部名（フリガナ）	所属ゼミナール名（フリガナ）
フリガナ) アイチダイガク	フリガナ) ケイエイガクブ	フリガナ) フルカワチトセ
愛知大学	経営学部	古川千歳ゼミ

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	パワーポイント内の 動画使用（有・無）
フリガナ) ルーズベルト	フリガナ) アオキ ショウ	4	無
ルーズベルト	青木 翔		

※プレゼンツールを使用する場合は記入してください。記入がないプレゼンツールは大会当日使用できません。

使用するプレゼンツール（具体的に使用するツールを明記してください）

## 研究テーマ（発表タイトル）

成果を出すチームとは ～大学生編～

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

### 1. 研究概要（目的・狙いなど）

企業や社会的視点も踏まえつつ大学生における成果を出すチームとはどのようなものなのかというのを、同質性・異質性という2つのキーワードに着目して研究をし、それを発表。

目的としては、大学生における成果を出すチームがどのようなものであるかを研究しチームの形成や在り方を提案したい。

予選では同質性・異質性の定義の見直しの必要性を述べ、新しい定義の提案とそれを踏まえた上での今後の課題を発表する。

### 2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

チームワークが社会的に注目されており、それについてさまざまな議論が行われている。

経済産業省の『大学生の「社会人観」の把握と「社会人基礎力」の認知度向上実証に関する調査』から、大学生自身はチームワーク力が身につけていると考えているが、企業は大学生にはチームワーク力は身につけていないと考えている現状がある。

また企業の現状として、クロスファンクショナルチームの形成や多様性が注目されており、企業的には異質性の傾向がみられる。

### 3. 研究テーマの課題

大学生における成果を出すことを目指すチーム、また成果を出したチームが同質性・異質性をインタビュー結果をもとに振り分けしていたが、自分たちが求めている答えが十分に得られず、同質性・異質性の定義の見直しが必要ではないかと考え、それを見

直し新たな定義を提案することを今回の発表の課題とした。

本選あるいはこれからの課題は、見直した定義や他のインタビュー項目から成果を出すチームがどのようなものであるかを再度研究することである。

#### 4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

今回の発表の課題解決策は、インタビューの結果から、多くみられた回答を集計し同質性・異質性の定義を見直すことである。

#### 5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

ゼミでチーム活動を行っている愛知大学経営学部の学生にインタビューを実施。

（以下インタビュー内容）

##### 研究チームについてのインタビュー

チーム名：

チームの構成人数：

男女比：

Q1.自分たちのチーム全体の特徴を教えてください。

考え方・発想・視点	
知識	※研究に対して
能力	※研究に対して

Q2.自分自身がメンバーと同じだと思う点・異なると思う点がありますか？

【同じ】

【異なる】

Q3.チームでのあなたの役割は何ですか？（役割の内容もあわせて）

リーダーがメンバーを選びましたか？（選んだ場合、判断基準も聞く） ※リーダーのみに聞く

Q4.（メンバーから見た）リーダーの理想像は何ですか？ ※メンバーのみに聞く

Q5.意見の衝突はありましたか？(具体的に) ない場合→言えなかった不満はあるか？

意見の衝突があった後、チームはうまくいきましたか？

【うまくいった】(なぜ)

【うまくいかなかった】(なぜ)

Q6.チームでうまくいっている時はどんな時ですか？

Q7.チームで集まる頻度はどのくらいですか？

## 6. 結果や今後の取り組み

成果を出したチーム、成果を出すことを目指すチームともに異質性を持ったチームになると支持されたが、この結果はともに不十分である。なぜならば、インタビューの結果から自分たちが求めていた答えが十分に得られなかったからである。

なので、今回の発表の結果としては、同質性・異質性の定義の見直しまでとなっている。

今後の取り組みとしては、結果をもとに研究を続けていき、本選に進めるのであれば、見直した定義や他のアンケート結果から成果を出すチームがどのようなものであるかを見ていきたい。

## 7. 参考文献

日経ビジネスオンライン

<http://business.nikkeibp.co.jp/article/manage/20121205/240619/>

NOMA 総研

<http://neos.noma.co.jp/case/v16.html>

日本自動車工業会

<http://www.jama.or.jp/lib/jamagazine/201301/04.html>

(最終アクセス日 2017年10月19日)

People Focus Consulting

<https://pfcdays.wordpress.com/2016/01/30/globalod-2/>

The Essence of BBT

<http://www.bbt757.com/pr/bbtch/96/>

日本チームビルディング協会 HP

<http://jtba.jp/>

株式会社ハートクエイク

<http://heart-quake.com/>

『ザ・チーム –日本の一番大きな問題を解く–』 斉藤ウィリアム浩幸

『「チームワーク力」に関する学習・教育到達目標の設定について考えるべき事』 JABEE-日工教共催ワークショップ

『大学生の「社会人観」の把握と「社会人基礎力」の認知度向上実証に関する調査』 経済産業省

『戦略的提携における異質性と同質性のマネジメント–探索段階のチーム間提携に注目して–』 富田 健司

『日産自動車におけるクロスファンクショナル・チーム(CFT) の活動–再生のための活動とその後の活動の管理会計の立場からの考察–』 浜田 和樹

『市場と組織をデザインするビジネス・エコノミクスの最前線』 一橋ビジネスレビュー

(最終アクセス日 2017年10月31日)

#### ＜企画シート作成上の注意＞

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、審査を行っていただく大学教員・企業の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、翌年3月に公開予定の「大会結果 Web ページ」に掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。事務局から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更（チームの人数・交代など）は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、西日本インカレ事務局にご連絡ください。事務局より手続きについてご連絡をさせていただきます。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HPなどに発表されていない）ものに限り、ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、著作権の使用許諾を得てください。日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※プレゼンツールを使用する場合は、必ず使用するツール名をご記入ください。企画シートにご記入が無い場合は、発表当日の使用はできません。あらかじめご了承ください。

---

↑ここまでを4ページ以内に収めて、提出してください↑